



産学官民連携による人口減少対策

～「幸せ」にいつまでも住み続けられるまちづくり～

若狭町



平成17年3月誕生

人 口 13,720人

世帶數 4,944世帶

高齢化率 35.8%

集落の数 89集落



若狭町の紹介



三方五湖@レインボーライン



鯖街道 熊川宿



名水百選 瓜割の滝



アオリイカ



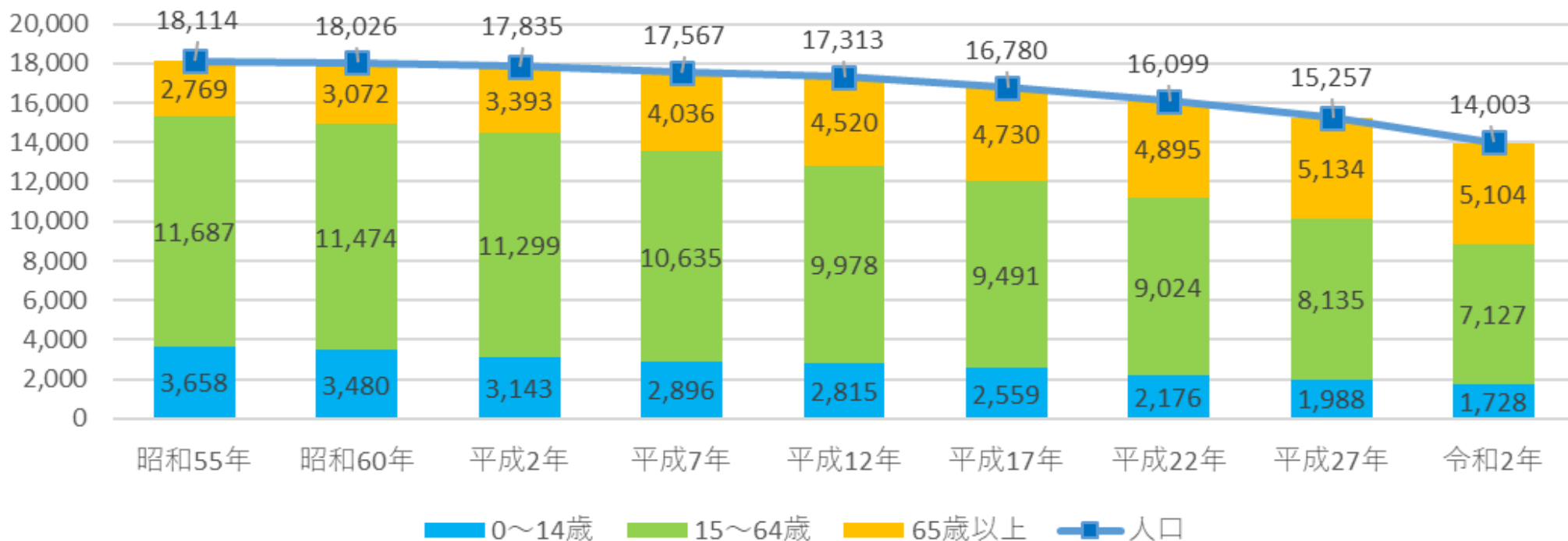
うなぎ



福井梅

若狭町の人口

●人口の状況



【令和2年国調人口】

●人口： 14,003人

【平成17年度からの減少率】

●減少率：16.5%

【令和2年度高齢化率】

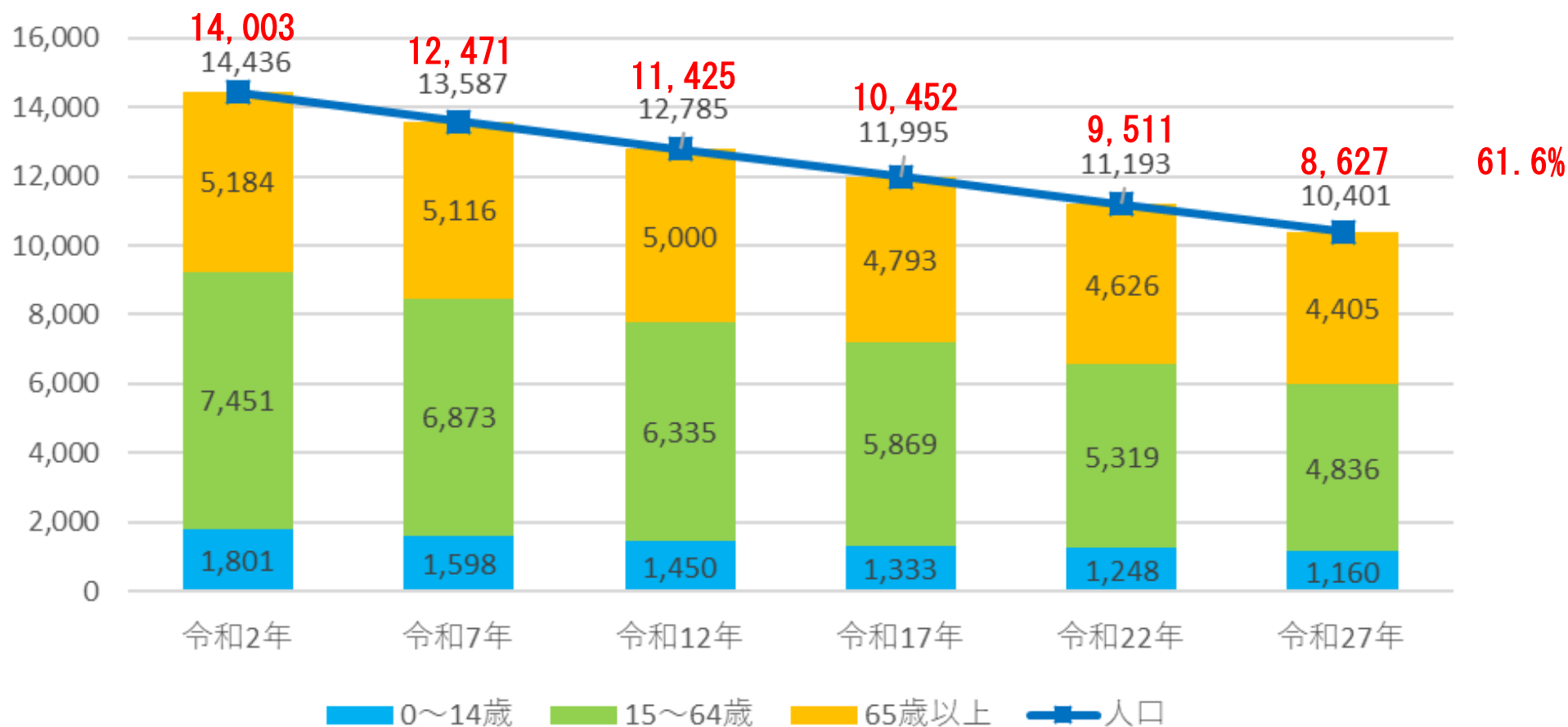
●高齢化率：36.4%

若狭町の人口

●人口の予測

令和5年12月

国立社会保障・人口問題研究所が平成30年に行った若狭町の人口予測



若狭町のまちづくり

中期基本計画目標

将来も住み続けられ、心ゆたかで 「幸せ」な暮らしの実現

政策目標



1 魅力あふれる産業で 「幸せ」に暮らせるまちへ



新しい産業・ビジネスの創出や民間事業者の誘致により、町の魅力を高め、住民が幸せを実感でき、地域経済の好循環を実現するための取り組みを進めていきます。

若狭町が誇る自然、名所等の観光資源や歴史遺産、そして新鮮な食材と豊かな食などをブラッシュアップし、発信、PRすることにより、観光客滞在時間の延長および旅行消費額を拡大させ、稼げる観光地づくりを目指します。

農林水産業の担い手育成を図り、地域資源の魅力を高めつつ、経営の効率化・安定化を図ります。



2 安全・安心を協働で築く 「幸せ」なまちへ



快適に暮らせる住環境の実現のため、上下水道環境、道路環境、地域公共交通を維持・充実し、情報通信環境整備、廃棄物処理の集約化・効率化を進めることで、住民の満足度の向上を目指します。

魅力あるエリアの開発、分譲地など住まいを供給し、若者のU・Iターンや定住を目指します。

地域の安全・安心を確保するために、行政、個人、家庭、地域、企業、団体等の防災・防犯意識を高めるとともに、連携した体制の整備を図ります。



3 「幸せ」の中で誰もが自分らしく 元気に暮らせるまちへ



人生100年時代、健康寿命の延伸を目指し、誰もが元気に活躍できるよう、ライフステージに応じた取り組みや、生まれる前から高齢期までの一生涯にわたって、健康づくりを推進します。

住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会の実現を目指し、これまで以上に地域における見守りや支え合い体制を構築し、地域全体で助け合う機運を高めます。



4 親子が笑顔で過ごせる 「幸せ」いっぱいのまちへ



妊娠期から子育て期にわたって切れ目のない支援をし、子どもを取り巻くあらゆる環境を整え、子どもが健やかに成長していくことを町全体で後押しします。

将来、夢や希望を実現し、社会や地域の担い手として活躍できるように、学んだことを主体的に活かしながら、多様な人との対話を通して新たな価値を創造していく協働的な学びを充実します。

子どもが本来持っている「自ら学び成長しようとする力」を育めるため、豊かな自然に接する機会を多く設け、自然環境や地域資源を活かした体験活動を推進します。



5 「幸せ」あふれる集落で いつまでも住み続けられるまちへ



地域活動を行う各種団体や地域コミュニティ活動への支援を推進し、人と人を繋ぎ、互いを支え合い、住民と地域社会を元気にしていく取り組みを進めていきます。

学校でのふるさと学習や体験活動を通じて、地域の人々と関わりを持ち、郷土を理解することで、郷土への誇りや愛着心を持った心豊かな子どもの育成を図ります。

人口減少対策に取り組み、若者・子育て世代の移住・定住に繋がる施策を展開していきます。



6 自然・文化を楽しみ 「幸せ」とともに未来へ引き継ぐまちへ



文化芸術を身近に感じ、誰もが健康で文化的な生活を実感できる機会を今後も増やしていくため、文化芸術活動による住民の交流と地域の活性化を促進します。

文化遺産を身近に感じてもらい住みづくりと地域内外へ情報発信をします。

気候変動の原因となっている温室効果ガスの抑制のため、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを実施します。



7 最良の行財政運営で「幸せ」が実現できるまちへ



住民のニーズを的確に把握した上で、最適なデジタル技術を用いて、住民の利便性の向上と行政事務の効率化を進めます。

健全な財政運営を継続させるために、事務事業やイベントの見直し、各種料金等の見直し、ふるさと納税の推進など短期的な目標のほか、公共施設等の適正な配置と運営方法など中長期的な課題を掲げ、行財政改革を継続して進めます。

基本計画の全文は、



福井大学との取り組み



包括的連携に関する協定書

若狭町と国立大学法人福井大学は、相互の発展と地域共創を目的として、包括的な連携の下に、教育、学術、産業、医療、福祉、健康、文化など各分野における相互協力を推進するため、次のとおり協定を締結する。

- 1 連携の項目は次のとおりとし、その形式などは別途協議する。
 - (1) 持続可能なまちづくり、定住促進に関すること
 - (2) 地域資源を活かした地域活性化に関すること
 - (3) 先端技術の研究開発と活用による産業振興に関すること
 - (4) 地域医療と保健、福祉の充実にに関すること
 - (5) 国際交流・地域交流の推進に関すること
 - (6) その他目的を達成するために必要な事項に関すること

- 2 本協定の有効期間は、署名の日から2年間とする。ただし、いずれからも異議の申し出がない場合は、更に2年間更新するものとし、その後また同様とする。

本協定の締結を証するため、本協定書を2通作成し、双方が署名の上、それぞれ1通を保有する。

令和4年5月9日

若狭町長

渡辺英朗

国立大学法人
福井大学長

上田孝典

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

地域の「未来」を創造し、地域の「魅力」を育てます

- 自然（水・緑・風）の恵みを大切にしながら、安全・安心で暮らしやすい住環境の整ったモデル地域を創出します。
- 自然との「共生」、資源の「循環」を目指し、若狭町が誇る「自然」とその「エネルギー」を活用します。

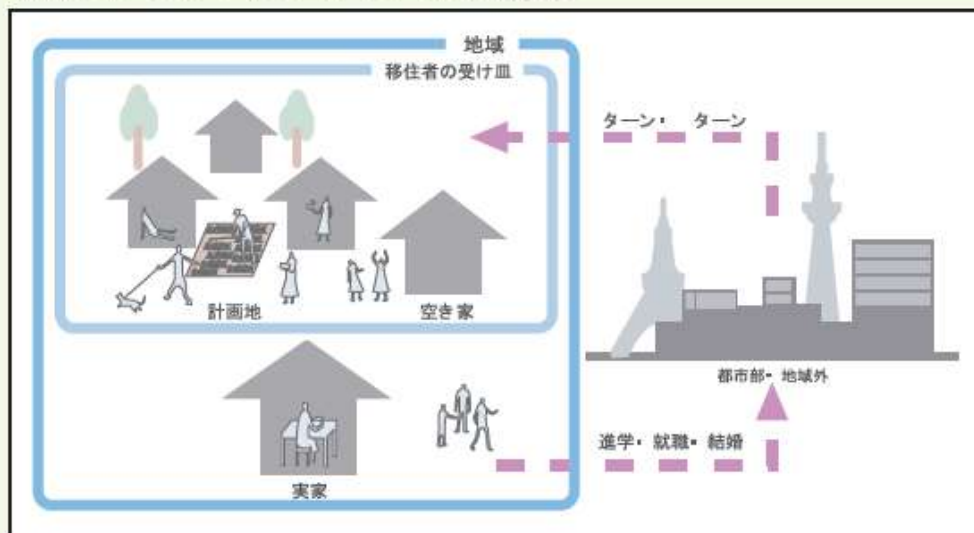
若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

#1 持続可能な地域社会の構築

地域外に出た若者のUターンやIターンの受け皿を確保します。
雇用のみならず、住宅団地を整備することにより多様な人々が「住み続けたい」という地域社会を構築していきます。

住みやすいコミュニティの構築



エコ住宅団地の整備

自然（水・緑・風）の恵みを大切にしながら、安全安心に暮らしやすい環境を提供します。
既存集落との連携、住宅内のコミュニティの向上を図り、住み続けたい環境を提供します。

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

#2 省エネ・低炭素社会の実現

自然エネルギーの活用や地域資源の有効利用などを通じて、環境と共生していく地域づくりを目指します。

地域資源の有効利用

自然エネルギーの創出



薪

地元の間伐材を有効活用し、リーズナブルな価格で取り付けられるシステムを考え、環境に配慮した暖房利用を行います。

瓜割の豊富な水資源を活用し、小水力発電に取り組みます。発電した電力は、体験施設の照明やあじさい広場のライトアップなどのエコな取り組みや発電のPRに活用します。また、電気自動車（EV）の充電ができるEVステーションの設置や電気自転車の設置により、エコのモデルとなる地域を創造し、誘客につなげます。

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

#3 環境教育・エコ意識の向上

地域の豊かな自然を生かし、環境教育を進めていきます。
子どもを対象にした環境教育講座やイベントを開き、環境
への正しい理解とエコ意識を向上していきます。

自然学習の取り組み

植物観察や生物観察などによる自然学習

環境学習の取り組み

水車・風車・太陽光を使った発電の実験



瓜割名水公園やピオトープ等での遊びや観察から自然環境
について学びます。

ホテル観察会や星空観察会、植物観察会などの自然を存分
に活かしたプログラムを行います。

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

#4 地域の活力向上とコミュニティの醸成

瓜割名水公園の観光向上を行うとともに、エコや地産地消に関するイベントを地域が中心となって開催します。

瓜割名水公園の水車の再生と
アジサイ広場の整備



町を代表する観光地「瓜割名水公園」の整備を行い、集客の拡大を目指す。水車の製作やアジサイ広場の整備を地域住民で行い、コミュニティの盛り上がりにつなげます。

エコイベントによるコミュニティの醸成



地域住民とコミュニティ部会が協同してエコイベントを行うことで、地域のコミュニティを育みます。地域資源を生かしたイベント内容とすることで、子どもたちは楽しく地域について学び、大人も地域資源を再認識することが出来ます。

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

福井大学

代表 野嶋慎二福井大学教授

- ・専門的知識（住民参加型コミュニティ形成）の指導
- ・エコ住宅団地実施計画書監修
- ・エコ住宅団地整備指導監修



エコ住宅研究部会

若狭瓜割エコ住宅団地を創出する

- エコ住宅団地の整備計画の検討
- エコ住宅の指針作成
- 自然環境整備の検討



エコ住宅団地実施設計作成



コミュニティ部会

住みたくなるモデル地域を創出する

- 公共施設の管理運営の検討
- アンケート調査
- 構想のPR活動・ソフト事業の推進



公共施設の管理運営計画
エコビレッジ構想のPR

福井工業大学

代表 西岡哲平福井工業大学教授

- ・専門的知識（自然エネルギー分野）の指導
- ・自然エネルギー基本計画書作成
- ・現地状況の調査及びフィールドテスト



自然・エネルギー部会

自然と共生する暮らしを創出する

- 各種自然エネルギーの可能性の検討
- 自然エネルギーの機種の検討
- 費用便益と活用方法の検討



自然エネルギー基本計画書作成

福井大学との取り組み

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

若狭瓜割エコ住宅団地を創出する



エコ住宅研究部会

【監修】福井大学建築建設工学 野嶋慎二教授

【委員】町内建築業者、造園業者、ミサワホーム、地元自治会、町内移住者、学生 etc

【趣旨】エコで住み続けたいとなる住宅団地の創出

【特徴】名水「瓜割の水」が住宅内を循環、緑地を増やし、白舗装により、体感マイナス3度を実現

福井大学との取り組み

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

若狭瓜割エコ住宅団地を創出する



- 【概要】
- ・造成面積 約15,000㎡
 - ・分譲数26区画
 - ・50人が町外から移住（令和7年度現在）
 - ・既存集落とエコ住宅団地の融合型で、住み続けたい環境を創出
 - ・移住者がカフェをオープンしコミュニティが向上



若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

自然と共生する暮らしを創出する



自然・エネルギー部会

【監修】福井工業大学 西岡哲平教授

【委員】関西電力、ニチコン、地元自治会、地元農園、学生 etc

【趣旨】自然との共生を目指す環境整備と、それに伴う観光施設の魅力向上

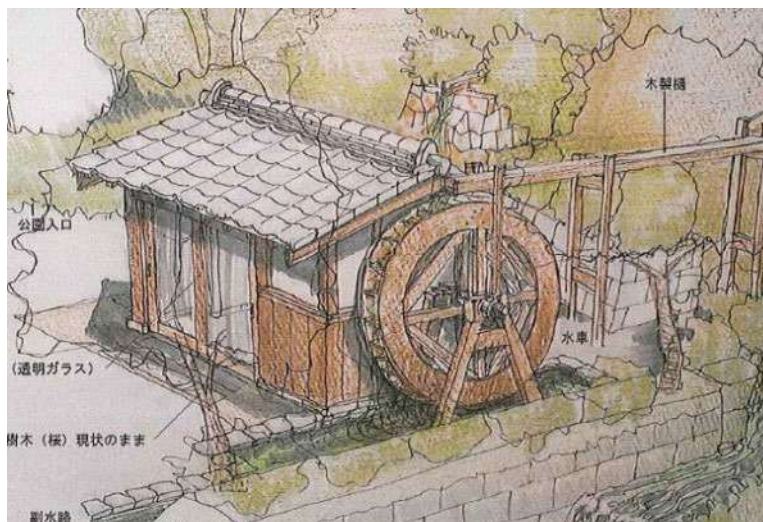
【特徴】名水「瓜割の水」を動力とした観光用木製水車と発電用小水力水車による活用モデル整備



若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

自然と共生する暮らしを創出する



- 【概要】
- ・観光地「瓜割名水公園」に木製水車を復元
 - ・地元住民の地域への誇りを醸成し、活力を向上
 - ・瓜割名水で育まれた蕎麦を木製水車で引き、蕎麦粉を売店で販売
 - ・売店には学生によるロゴを制作



若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

自然と共生する暮らしを創出する



【概要】

- 地元企業と共同開発
- 手軽にできる小水力発電システムを構築
- 観光地を利用し取り組みを発信

若狭瓜割エコビレッジ構想

これまでもあった風景と、これからつくる風景。水と農のあるエコライフ。

自然と共生する暮らしを創出する



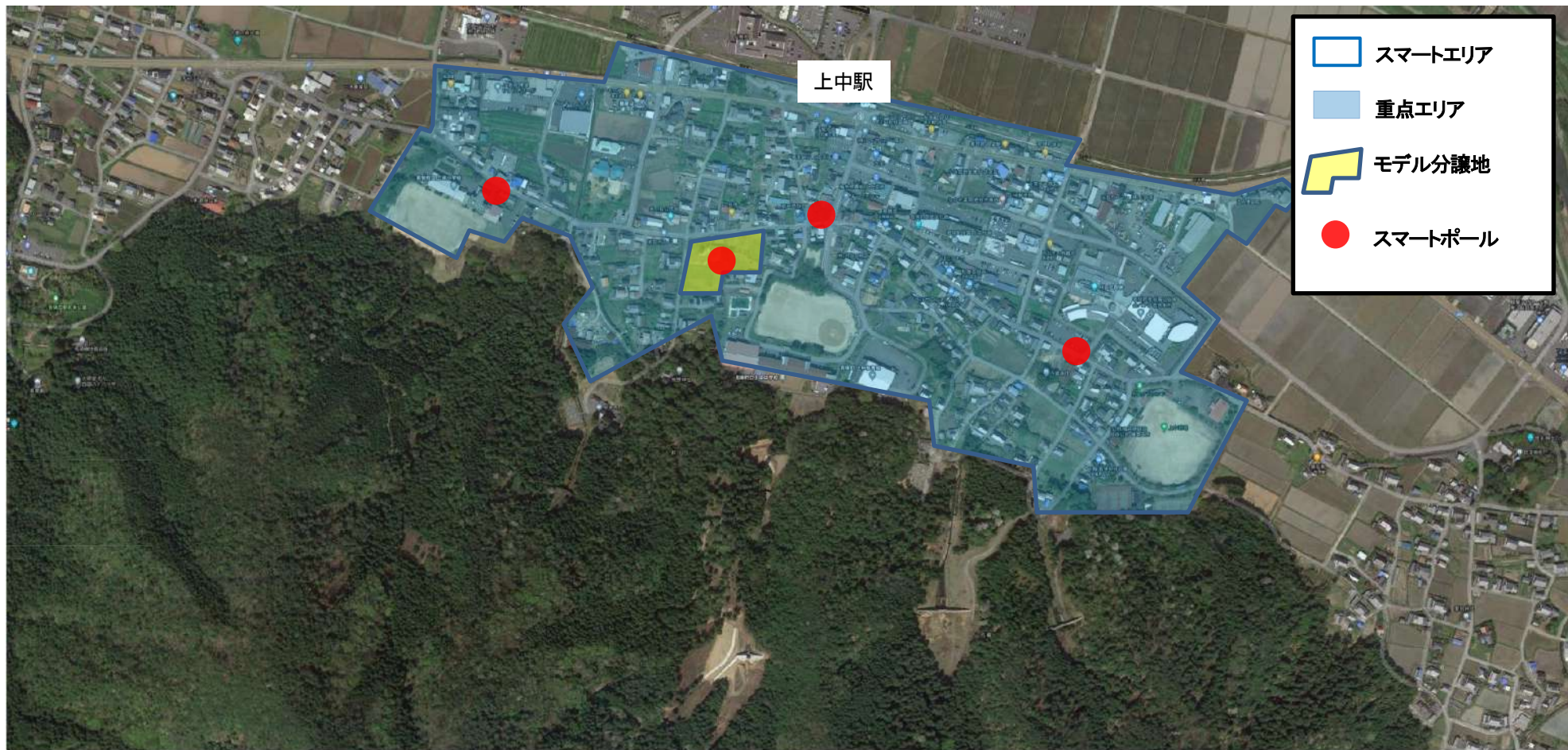
【概要】

- 立命館大学との連携活動
- 自転車のリムを利用した小水力発電について学習

若狭町スマートエリア構想

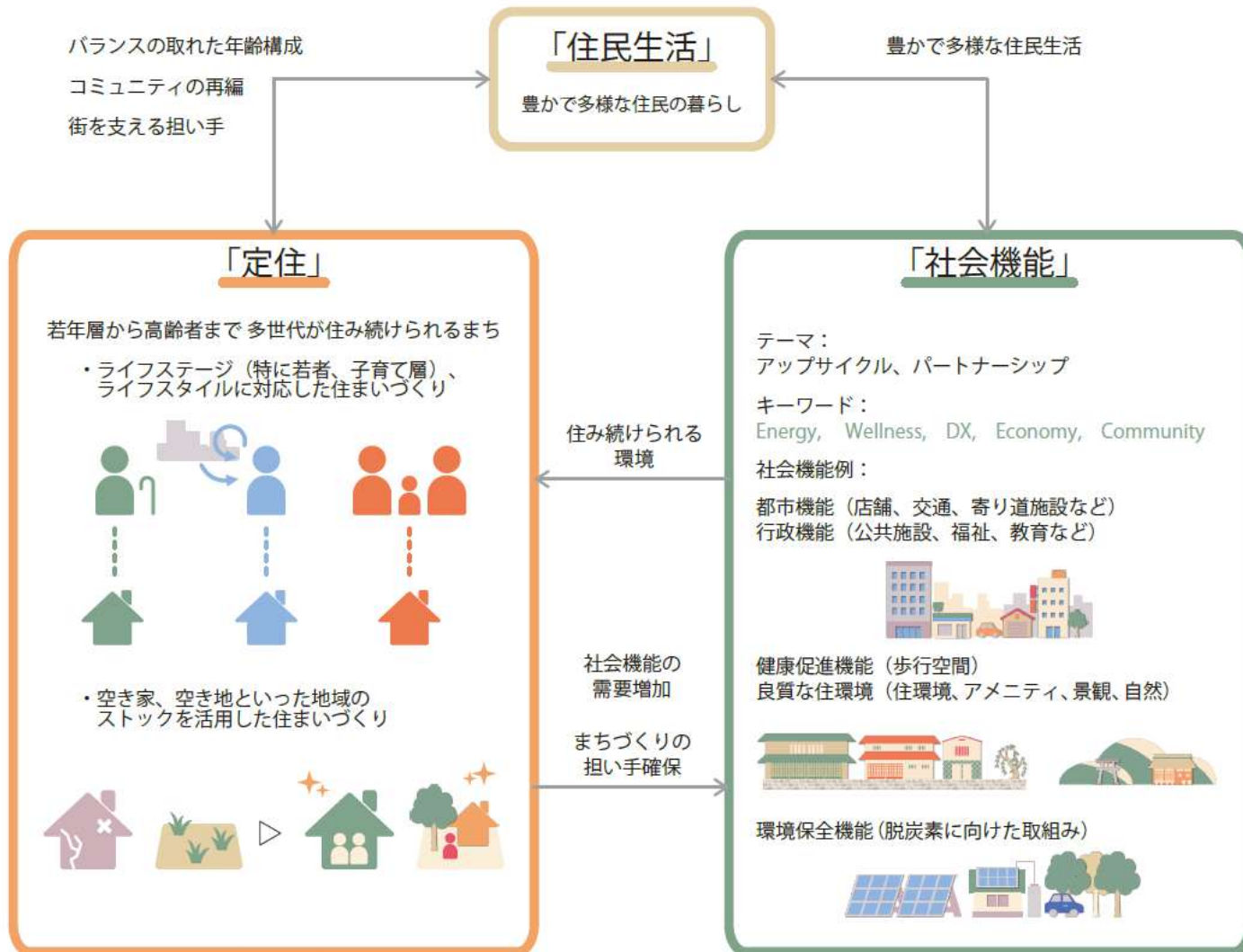
「持続可能な人口減少社会の実現」を実現するため、上中地区に
「社会機能」「住民生活」「定住」を好循環させる中核エリアを設定し、
住民の暮らしが安定することで持続的なまちを先導する。

福井大学との取り組み



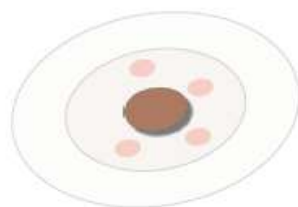
若狭町スマートエリア構想

「社会機能」「住民生活」「定住」の好循環



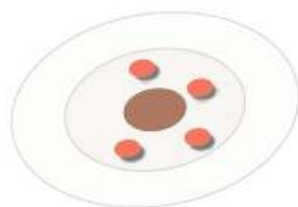
若狭町スマートエリア構想

→中核エリア(上中地区)にサスティナブル・スマートエリアをつくる



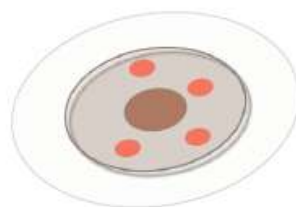
モデル分譲地

小規模住宅開発の段階的整備の起点となる宅地。



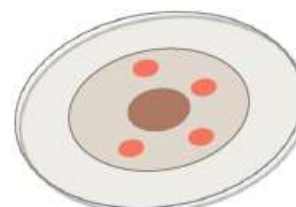
空き地・空き家

既存ストックを活用した多様で魅力的な住まいづくりを実現。



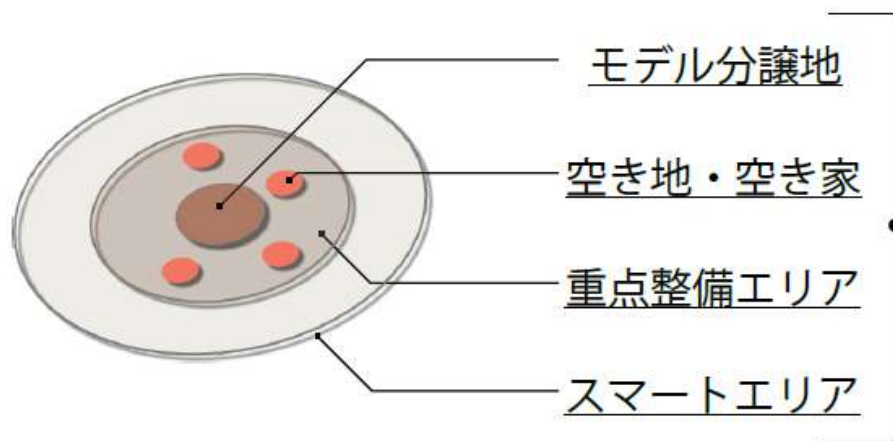
重点整備エリア

まちの中心的な施設や既存ストックのあるエリアの整備を重点的に行う。



スマートエリア

一帯を囲んだエリア内で先進技術を導入した魅力的なまちづくりを行う。



モデル分譲地

空き地・空き家

重点整備エリア

スマートエリア

サスティナブル・スマートエリア
の形成

若狭町スマートエリア構想



ウォーカブルで健幸なまち

旧鯖街道を中心に、歩いて楽しい空間、機能を整備します。



交流・活力があふれるまち

地域内の多世代交流を促進するとともに、新規住民も参入しやすい体制を作ります。



多様な人材が集い 住み続けられるまち

地域のストックを活かした多様なニーズに合った住宅提供と、生活サービスの充実を図ります。



安心安全に暮らせるまち

先進技術を導入したまちの見守り機能を整備します。



エネルギーを地産地消する 環境にやさしいまち

効率的なエネルギー利用を行い、環境に配慮したまちを作るための設備・機能を導入します。

若狭町スマートエリア構想

ウォーカブルで健幸なまち

水と緑が見える美しい景観



回遊性のある街道ネットワーク



交流・活力があふれるまち

多様な都市機能や寄り道施設



水と緑、歴史と文化が見える滞留スポット



多様な人材が集い住み続けられるまち

多世代が住み続けられる多様な住宅



若年層からお年寄りまでのニーズに合った住宅と住環境が必要です。

安心安全に暮らせるまち

エネルギーを地産地消する環境にやさしいまち

IoT・省エネ技術の導入



福井大学との取り組み

スマートエリア構想完成状況



スマートエリア構想完成状況

子どもの見守りシステム

子どもの見守り対策としてデジタルを活用した見守りシステムを構築
通学路を中心に見守りルーターを設置し、専用端末を持った子どもが見守りルーターを通過時に保護者に通知



イメージ

朝刊 2025/02/19 22面



下校する若狭町三宅小の児童。20日から同校で「子ども見守りサービス」が始まる＝同校

児童の居場所 保護者に通知

若狭町、三宅小で見守りサービス

専用端末を配布 あすから運用

若狭町は20日から、同町三宅小児童を対象にした「子ども見守りサービス」の運用を始める。児童に専用端末を配り、同校区内に30カ所設置する見守りスポット付近を通過するスマートフォンアプリで保護者に通知が通り、子どもの現在地が分かる仕組み。安心安全な暮らしの実現につなげる。（吉田和弥）



子ども見守りサービスで児童に配られる専用端末（左）と見守り形の小さな

町がJR上中駅前1帯で進めるスマートエリア開発事業の一環、全国39自治体の「IoT」(本社福岡市)のサービスを導入する。同社によると、県内での導入は今回が初めて。

町は新生児には毎年専用端末を無料で配る。町総合政策課の担当者は「安心安全な暮らしができるエリアとして魅力を高め、移住定住の促進につなげる。利用実績や評判も踏まえて、他校への展開も検討していきたい」と話した。

〔機能〕搭載。現在の16年生85人と1月に入学予定の11人に無料で配り、一斉に配布する見守り形の小さな端末にランドセルなどに付けてもらう。受信機を設置した三宅小や校区内の店舗、集会所など多機能街灯4基が見守りスポットとなり、子どもが近くを通ると専用アプリで保護者に通知される。

スマートエリア構想完成状況

スマートポール

地域の安全・安心の充実と見守り対策として多機能ポール (スマートポール) を設置
スマートポールには外灯機能、防犯カメラ機能、見守り受信機能を搭載

- ・ インターネット上でカメラの映像をリアルタイム視聴、録画・再生
- ・ 通常は防犯灯として機能し、災害時は紫等に自動点灯し注意喚起
- ・ 専用端末を持った子どもがポール通過時に保護者に通知



イメージ



ご清聴ありがとうございました

